一人ひとりが活かすこと

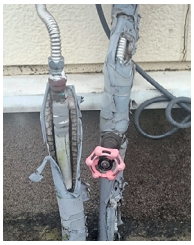
今回の漏水のほとんどは、一般家庭内の水道管の凍結・破裂が原因でした。断水への備えも含め、一人ひとりができることを考えます。

■水道管の凍結対策

一般に、外気温がマイナス４℃以下になると、水道管が凍結・破損しやすくなります。天気予報などで低温注意の予報が出た際は、水道管の凍結対策をお願いします。

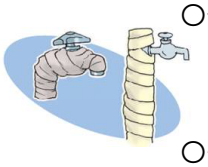
【特に凍結しやすい水道管】

〇屋外で風が直接あたる場所にある水道管
〇北側の日陰にある水道管
〇むき出しの水道管や温水器の配水管
※右図のように、カバーが外れ、水道管がむき出しになっているものは、特に凍結しやすいので注意



【家庭でできる凍結対策】

〇保温材をまく



⇒水道管（屋外立水栓は蛇口も）を完全に包みます。毛布や布などでも代用できます
〇少量の水を出し続ける
⇒チョロチョロと蛇口から水を出し続けます。出した水は浴槽やバケツなどに貯めておき、再利用してください

【水道管が凍結したら】

水道管内の凍結で水が出ない際は、水道管の凍った部分にタオルなどをかぶせ、ぬるま湯でゆっくり時間をかけて溶かします。熱湯を直接かけると、破損を起こすので危険です。

【水道管が破裂したら】

水道メーター横のバルブや宅内の止水栓を締めて水を止めます。それでも水が止まらない場合は、破損した部分にタオルやビニールテープを巻いて応急措置を行ってください。その後、桂川町役場水道課（☎６５・３２４１）に連絡してください。

■断水への備え ～飲み水の貯め置き～

災害・断水時には、１人１日３ℓの飲料水が必要と言われています。飲料水は、ペットボトルやふた付きのポリ容器に水を貯め置き、備蓄飲料水として活用してください。

【備蓄飲料水（ペットボトル）の保存方法例】

〇手を洗い、容器を水道水でよく洗う
〇容量いっぱいに（口元まで）水道水を入れ、できるだけ空気が入らないようにする
〇冷暗所に保存する
〇一般的には、保存期限は３日程度が目安です。使用しなかった水は生活用水として使用するほか、煮沸して殺菌すれば飲用としても使えます

■断水時のトイレの流し方

断水の際、「トイレが不便」という声が多く聞かれました。水洗トイレでは、バケツなどで勢いよく水を流すことで排泄物を流すことができます。詳しくはトイレの説明書をご確認ください。

この場合を含め、お風呂の残り湯は、すぐに捨てずに貯めておくことで、いざという時に生活用水として役立ちます。

■漏水の確認方法

前回の検針に比べて急に水道の使用水量が増えた場合には、漏水している恐れがあります。

【漏水の確認方法】

自宅のすべての蛇口を閉め、水道メーターのパイロットマークが回っているか確認してください。回っている場合は、漏水している可能性があります。